

DEBUT 首長

兵庫県加古川市長 岡田 康裕氏



おかだ・やすひろ 1975年神戸市生まれ。98年東京大学工学部卒業、2000年ハーバード大学院修士課程修了。経営コンサルティング会社アナリストなどを経て09年に兵庫10区より衆議院議員に初当選。14年加古川市長選で当選。

市民による「新型事業仕分け」駅前整備や子育て支援にも力

兵庫県加古川市 神戸市と姫路市の間にありベッドタウンとして発達。海岸線に国内有数の鉄鋼工場があり、内陸部には靴下・建具などの伝統地場産業が営まれている。国宝を多数所蔵する鶴林寺や高御位山など清流と豊かな緑を擁した文化遺産が多い。

——38歳での就任。若さをどう生かしていくか。具体的な取り組みは。

若さのいい点は市民が物を言いやすいところだろう。オープンという言葉掲げ、開かれた行政を目指して市長選を戦った。時には負担増をお願いしなければならぬ時代だけに、行政の方が丸裸になって苦しい状況や課題を伝える。信頼関係があれば市民と一緒に政策を動かせる。自治体の1つのモデルとなるチャレンジをしたい。

「公開事業評価」を採用する。新型の事業仕分けのようなものだが、私も仕分け人として関わった民主党時代の事業仕分けのような形では力のある人の意見が結論ようになってしまう懸念がある。市民を無作為に抽出し「市民判定人」になっていただく。外部有識者らの議論をもとに市民が判定をする。

——加古川は住みやすいとの評価の一方、神戸と姫路の間に埋没しかねない。駅前にも活気がほしいとの声も多い。

ベッドタウンとしての可能性はさらに生かしていきたいが、週末も市民が市外に出てしまい消費も外で行われている。もっと市内で週末を過ごしやすいしていきたい。観光振興もPRが足りない。

駅の西側に600床の加古川中央市民病院が2016年秋に開業予定だ。駅の南すぐの商店街通りにも大きな高層マンションができつつある。ただ病院とマンションの間がこれから頑張らないといけないエリアだ。

——子育て支援の拡充と公約に掲げた副市長の外部登用にはどう取り組む。

小学校は学童保育の課題がある。国の方針で受け入れ児童を4～6年生にも広げ、1人当たりの床面積も相当な拡大が必要。今の1人当たりの負担は7000円プラスおやつ代程度だが民間でやるとなると市が補助を出さなければならない。その方法も頭にはあるが、前段階で地域の

元気な高齢者に活躍してもらい、公会堂などを使ってできないかという話も始めている。中学校給食は各学校でつくる方式かセンター方式か議論している。来年度予算で方向性を出したい。

副市長には役所にない専門性を持った人に来てもらいたい。いきなりお友達人事をやれば9月議会で築いた議会との信頼関係を壊してしまう。年内となると12月の議会で承認を得なければならないが、難しいだろう。焦らずに進める。

——国政経験をどう生かすか。

国政を経て国の財政の厳しさは正確に理解したつもりだ。地方分権といえど何でも財源が下りるわけではない。地方分権の時代に移行するほど自治体がレベルアップしなければならない。国や県の準備した制度を活用するだけでなく、市町村自体が変わらないといけない。

(聞き手は

神戸支社 下前 俊輔)